

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	小城市立三日月小学校		
1 前年度 評価結果の概要	○ 学校教育目標や経営方針を保護者や地域の方々にも周知し、連携・協力体制を強化していく必要がある。 ○ ユニバーサルデザイン化と対話を重視した指導方法の工夫を行い、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指した校内研究は、教師の充実感につながっている。学習状況調査や児童と保護者の意識調査から、児童の「わかる」にもつながっていると言える。 ○ 全校で「思いやりのある言動」について、徹底的に指導を行った。その結果が「学校が楽しい」と感じている児童の増加やいじめの認知件数の減少につながっている。今後も、お互いを認め合う「風土づくり」や、「学級づくり」・「仲間づくり」の充実に努める。 ○ 「あいさつ」については、児童・教師と保護者との評価にずれがあった。今後は、家庭や地域にも協力を呼びかけ、いつでも、どこでも、誰にでも挨拶ができる児童を育てる。		
2 学校教育目標	あいさつ 笑顔 思いやり 心をそろえて チーム三日月 ～正しく かしくく 美しく～		
3 本年度の重点目標	① 教育目標、重点目標、学年・学級目標の一貫性 ② 確かな学力の向上のための指導法・指導体制の充実 ③ 魅力ある学級経営を目指すとともに、協働体制による学年及び特別支援学級経営の推進 ④ 中学校までの9年間の学びを見通した指導を進める ⑤ 特別支援教育の視点をベースにした個への支援と集団支援の融合		

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取り組みの促進を図る。	B	・約9割の教職員で、学力学習状況調査の結果や分析をマイプランに反映させて取り組むことができた。 ・保護者回答から、家庭学習の定着率は昨年度と同程度(75%)で、ほとんど改善が見られなかった。家庭学習のさらなる啓発と、音読・漢字・計算以外の課題の出し方の工夫が必要である。	B	・全職員が共通理解のもと、子どもたちの教育に取り組んでおられ、すばらしい。マイプランの作成と職員間で共有する取り組みが十分達成されている。 ・家庭学習は音読・漢字・算ブリ等、充実している。九九の音読等工夫されて宿題を出されている。	学力向上対策 コーディネーター 研究主任
	○ユニバーサルデザイン化と対話を重視した指導方法の工夫	○授業についてのアンケートで、「わかる」が75%以上 ○4～6年の学習状況調査で佐賀県平均以上	・ユニバーサルデザインの考えに基づいた「め」「み」「か」「つ」「き」の学習過程の実践を徹底する。 ・学校生活の中で、理由を話したり書いたりする場面を積極的に設定し、正しく言葉を使うことができるように指導していく。	B	・児童アンケートの「勉強は分かりやすいですか。」という項目で、肯定的な回答をした児童が94%だった。保護者アンケート「学校は分かりやすい授業のために工夫をしていると思いますか。」の項目で肯定的回答をしている保護者は昨年度同様97%だった。児童・保護者とも大多数が「分かりやすい」ととらえている。 ・12月の学習状況調査では、6年の社会科以外は県平均を下回った。	B	・児童及び保護者のアンケートでは、わかりやすいという評価が高い。教科書に書いてあること以外にもプリントやたとえ等を使って、児童の理解のレベルに合わせて授業が行われていると思う。 ・12月の学習状況調査の分析から読解力の必要性を感じた。家庭や幼児期からの本との親しみがさらに必要である。読む習慣、楽しみは、聞くことから始まると思う。家庭の理解が重要である。 ・児童センターに遊びに来る児童を見ると、どの子どもも楽しそうにしている。日頃の先生方と児童の対話を重視した教育がなされていると思う。	研究主任 研究推進委員 学力向上対策 コーディネーター
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートで、思いやりの項目の肯定的評価が90%以上	・月1回の人権教室と平和集会を学級・学年・全校で実施 ・全教科、全領域で、実態に応じて具体的な事例を用いて指導	A	・外部講師を招いた体験的な活動や「ふれあい道徳」の実施等地域や保護者と連携した取り組みができた。 ・児童アンケートでは、「思いやりのある言葉づかいや行動ができた」と回答した児童が94%である。	A	・月1回の人権教室が行われており、豊かな心を育てる教育をされている。また、帰りの会等で友達のいいところを発表する場を設ける等、自他を尊重する心を高める指導が行われている。	道徳教育推進 教師 道徳担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○心のアンケートで「学校が楽しい」と回答する児童を90%以上	・心のアンケートを月1回実施 ・教育相談週間及び「先生への手紙」の実施 ・「規範作り」と「リレーション作り」に全職員で取り組む ・事案に対する即日対応	B	・児童アンケート「子どもたちが楽しく学校に来ること」では、肯定的回答が教職員96%、保護者94%だった。毎月の心のアンケートでも、2学期は肯定的回答が92%前後だった。各クラスで気になる児童に対応しているものの、学年間で共有している学年が少なかった。 ・教育相談に関わるアンケートでは、肯定的回答が教職員アンケート93%、児童アンケート95%、保護者アンケート93%といずれも90%以上であった。	B	・いじめの発見次第、被害者・加害者の意見を聞き、すぐ対策を打たれていると思う。また、いじめの内容をクラス全体でも指導をされて、いじめの未然防止に努められていると思う。加害児童の方の背景やフォローも引き続きお願いしたい。 ・1月末現在の集計で、いじめの態様項目について、状況が分からないが心配になる項目があった。	生徒指導担当 教育相談担当
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動	○難しい問題でもあきらめないで取り組む児童80%以上 ○クラスの友達に認められていると感じている児童70%以上	・毎学期始めに、学習や生活に関する個人の目標を設定させ、学期ごとに振り返る。 ・教職員による児童の良いところ見つけ、学級や学年で友達の良いところ見つけを行い、積極的に紹介をする。	B	・教職員アンケート「自己肯定感を高める声かけや指導」の項目で肯定的回答98%、児童アンケート「難しい問題でもあきらめないで取り組む」の項目で肯定的回答92%。 ・Q-Uで「クラスの友だちに認められている」と感じている児童は1・4・6年は70%以上、他の学年は70%未満。	B	・難しい問題でも休み時間を使ってわかるまで説明し、あきらめないで取り組む姿勢を教育されていると思う。 ・自己肯定感を育てる取り組みや声かけをされている。	教頭 教育相談担当
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●道路の歩き方や自転車の乗り方について、交通ルールを守っていると答える児童90%以上	・校区内巡回パトロール(週1回)、月1回の交通安全の日の交通立番、年度初め・学期始めの交通立番の実施 ・育友会と連携によるヘルメット着用推進	A	・1月に調査した「右側通行、横断歩道での信号及び左右確認」については、ほとんど変わらず90%代をキープできている。基本的に交通安全への意識は高く、車の往来も激しい本校区では注意せざるを得ないが、100%を目指す必要はある。今後、校内放送や学級での指導を繰り返しさらに意識を高めていきたい。	A	・定期的に歩き方や自転車の乗り方の注意喚起が行われ、継続的に交通安全に対する意識の高揚が行われていると思う。 ・交通安全への意識を高める取り組みがなされている。登下校の子どもの交通安全を意識した行動が見られる。	安全指導担当 生活指導担当
	●望ましい生活習慣の形成	○コロナ禍に伴い、感染症予防の習慣化のため、毎週月曜に実施している生活衛生チェック表の取り組みができている児童70パーセント以上を目指す。	・生活衛生チェック、保健室と3つの約束、委員会実施の「げんきカード」などの活用。保健タイムを利用した、全校一斉指導の実施。 ・給食日常点検表の活用。6月と11月に朝の全校一斉給食指導の実施。給食週間の取り組み。	B	・コロナ禍における生活衛生チェックは毎月曜日に実施。放送や、担任の声かけで、良い結果が出ている。マスク着用は、全校で1～2人のマスク忘れがいるがほとんどのクラスが100%である。ハンカチやティッシュの持参は、随分差があり、日々の声かけの継続が必要。全校一斉指導は1月も実施、100%実施できた。 ・給食当番の点検は毎日実施できている。朝の全校指導は6月と1月に実施した。残食はメニューによっては多い事があり指導を続ける。	B	・生活習慣の形成に向け、日々のチェックや声かけにより達成されている。コロナ感染症対策に対しては、マスク着用や黙食などきちんと対策をされていると思う。 ・給食の残滓率は、家庭環境の影響もあると思うが、好き嫌いの児童が多いと思う。黙食等、楽しい給食時間を持つことと自体が大変かと思うが、食の意味を考える機会としてほしい。	養護教諭 栄養教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限遵守	・報告・連絡・相談の徹底による組織的な対応 ・回覧版の活用による、会議や連絡会の時間を短縮 ・自らの業務改善を自己目標に設定	B	・働き方改革を意識し、自ら業務の見直しを図った職員の割合は81%であった。現時点での時間外業務時間の平均は昨年度より4時間程度度少なくなっている。・1ヶ月45時間以内(4月～12月)の職員の割合69%。	B	・コロナで大変な状況で業務改善につとめられていると感じるが、まだまだ夜遅くまで職員室の電気が付いている。 ・膨大な業務、一時も手を抜けない仕事であると思う。思い切った業務の見直しが必要だと思う。	教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育	○個別に支援が必要な児童に対する支援方法の検討、実施、評価	○個に応じた支援を心掛けた教員が90%以上	・全職員で対象児童の情報を整理、共有し、支援方法の検討 ・通常学級での支援方法を校内で研修	B	教職員アンケートの「個に応じた支援」に関しては、96%の教職員が支援できていると回答をしている。校内研としての研修はできなかったが、必要に応じて支援委員会を開催し支援の在り方を検討し実施することができた。また、担任と支援員が支援の在り方を打ち合わせする場を学期に1度設け、話し合うことができた。	A	・個別に支援が必要な児童への配慮事項等を全職員で共有し、対応されている。 ・年々、発達障害の児童が増えている。現場の方では非常に苦労されていると思う。引き続き児童の特性に合わせた対応を根気強く行ってもらえればと思う。	特別支援教育 コーディネーター
○小中連携	○小中で児童・生徒の情報共有とスムーズな移行	○6年担任、教育相談担当、生徒指導、特別支援担当による中学校の担当者と、年間5回以上情報交換会	・授業を公開し、研究会に参加 ・生徒指導や教育相談に関わる合同の研修会を開き、課題を共有し解決	B	小中連携の話し合いの場を持ち、情報を共有することができた。生徒指導や学習面について共通実践することはできなかったもので、次年度以降話し合いを行い取り組んでいきたい。授業を参観することについては、特定の職員ながら相互に参観することはできた。	B	・情報共有等努められていると思う。コロナ禍ではあるが、対策を講じて職員同士が相互理解のため、参観、意見交換、レクレーション等、交流も必要だと思う。	小中連携担当 6年学年主任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・本校の重点項目として取り組んだ「あいさつ」については、保護者アンケート、児童アンケートともに昨年度を上回った。今後も、学校経営方針に基づき取組内容を焦点化し、取組を充実させたい。 ・「心のアンケート」や「先生への手紙」、「教育相談週間」などを有効に活用し、いじめの早期発見・早期対応に努めることができた。 ・学力向上については、校内研究をとおして全職員が一丸となり取り組むことができた。しかし、県調査からは課題も見えた。今後は課題を明らかにした上で授業改善を行うとともに、家庭学習も定着させたい。 ・教職員の働き方改革の推進については、成績2学期制を実施したことで、業務改善につながった。今後も、教職員の意識改革と、疲労感軽減、働きやすさに向けて工夫する必要がある。
--------------------	---